

すっかんぽ。

1991年 11月号

せん だ がわ

泉田川のサケ

サケは必ず自分の生まれた川に帰ってくる。

1991年11月、福島県を流れる 泉田川 にもサケは帰っていた。

河口から 約800mの地点で川は、金網でせき止められ、

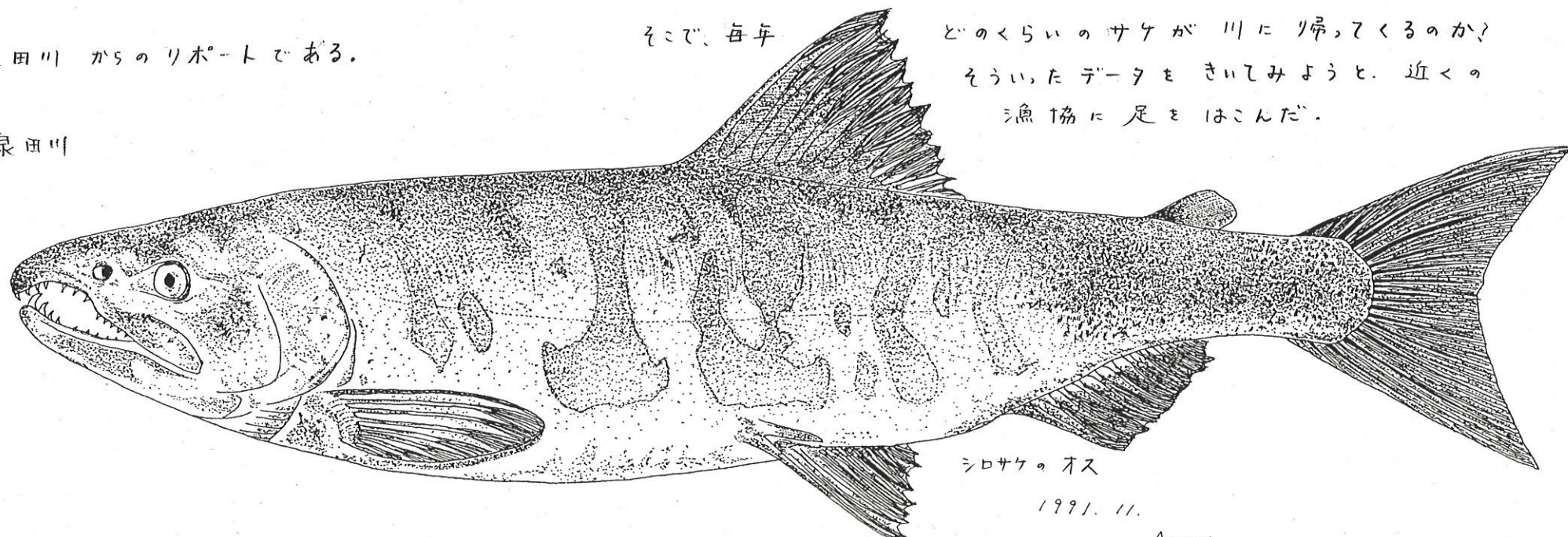
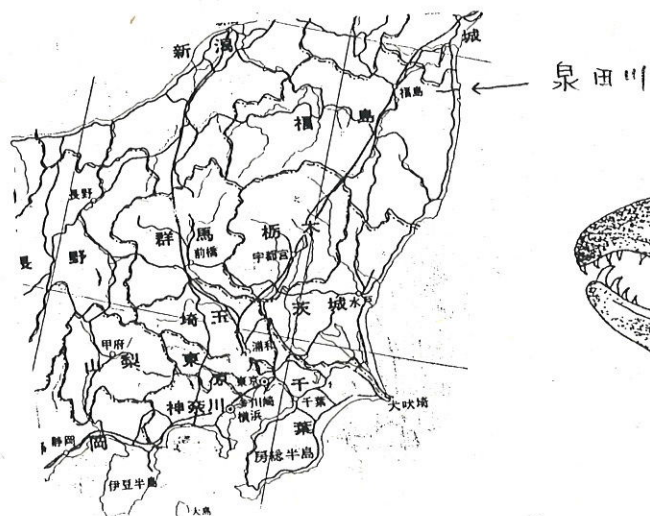
行き場も失った、20000尾をこえるサケが 川をうめている。

さらに、河口付近の 海には、川に入る順番待ちをしているサケ

が 数万尾もいるという。 いったい、どこからこんなに 集まってくる

のだろうか。

今回は、サケでにぎわう 泉田川 からのリポートである。



ところで、日本で獲れる サケの仲間には、シロサケ、サクラマス、カラフトマス(ピンクサーモン)の3種類あるが、その中で最も広く分布し、資源として重要視されているのは、シロサケである。

年末の魚屋の店先に、ずらりとぶらさがった大きな魚、
“新巻鮭”がまさに “シロサケ”なのである。

(切り身の塩ジャケや、筋子、イクラもシロサケからとれたもの)

ウロコの色は、ふっふ 銀白色をしているが、ここ 泉田川を
のぼるサケの体には、赤い模様(婚姻色)が自立っている。

産卵期が近づくと、体全体が徐々に黒ずみだし、赤、黄、
緑のまだら模様があらわれてくるのだ。さらに雄は、

上あごがのびて、下あごに おおいかがさるようになり、いわゆる

“鼻まがり”となる。 また、雄の方が体色も明るく、鮮やか

なので、雄雌の区別をつけることができる。

泉田川では、1日2回 網が入れられ、獲られたサケが
近くのテントで、1尾2000円程度で 飛ぶように売れていた。
そこで、毎年

どのくらいのサケが 川に帰ってくるのか?
そういったデータも きいてみよう。近くの
漁協に足を はこんだ。

シロサケのオス

1991. 11.

Aoyagi

原田武さん
組合長理事
泉田川漁協



実は、足もはこんだ、といても、い、しよに行、
た友人に、「ちょっと、トイレに行、てくるよ」と
言い残し、たまたまトイレのとなりにあ、た
漁協の事務所にぶら、と入、てしま、
ただけだ、たのだが……

中では、こわそうなおじさんが1人、
お昼もこれから食べようとしていた。
友人も待、てるし、おじさんも忙
しそうなので、何かパンフレット

みたいなものがな、りか、たすねてみた。するとおじさんから
「そういうのはないけど、¹³口じゃだめかい」という答、えが帰
ってきた。最初、何のこ、とかさ、ぼりわからな、かったが、
どうやら、口で話、すから何でも聞、いてくれ、ということ
らしい。このおじさん、もしかしたら、いいおじさんかもしれ
ないなと一安心し、一っだけ、1シーズンの漁獲量をき、いて
みることにした。「まあ、年によ、てちがうけど、去年は、7万尾
くらい。10万尾とれれば、大漁だね。今年は、今、
時期が一、番のぼ、てい、るけど、最終的にどれくらいに
なるかは、わかんないね」とカレンダーの裏に書きこ、まれ
た数字もみ、せながら話、てくれた。すると突然、
「メモし、とかな、い、で、おぼ、えてんのかい」というおじさんの鋭、い
っ、こみがあ、った。まさか、トイレのう、い、で、で、手、ば、ら、な、ので
紙とエンピツ、か、し、てくれ、とも言、えず、思、わ、ず、「だ、り、じ、ょう、ぶ、で
すよ。ここに書いてあります」と自分の頭、も、指、さ、し、て
しま、った。（今とな、ては、あの時、紙とエンピツも、か、り、と
き、ゃ、よ、か、た、と、思、っ、て、い、る。）

しかし、その後、本当に、おぼ、え、よう、と、真、剣、に、き、い、て、い、たら、今、度、は、お、じ
さんの方が話、に、の、つ、き、て、し、ま、い、「そうだ、サケの生、い、た、ち、か、ら
話、す、必、要、が、あ、る、な」と、段、々、話、は、も、り、あ、が、り、気、が、つ、い、た、ら、
約1時間、が、た、と、う、と、し、て、い、た。ああ、友人も1人、失、た、か、も
し、れ、ない、でも話、は、ま、だ、ま、だ、続、き、そ、う、（自分、と、い、は、き、き、ま、た、か、た）
そう、し、た、揺、れ、動、く、心、に、運、ぶ、く、お、じ、さん、へ、電、話、の、ベル、が
鳴、り、ひ、び、いた。「じゃ、お、た、し、そ、う、で、す、の、で、こ、れ、で、失、れ、し、ま、す」と
と私は、別、れ、を、告、げ、た。このおじさん、漁協の組合長さん
だ、った。

最後に、組合長の原田さんから聞いた話を頭の中のメモから、ま、と、め、て、お、こ、う。
泉田川に今年、最初、にサケが、の、ぼ、て、き、た、のは、9/23で、水、温、が
15℃以下に、な、た、10/17から、人、工、採、卵、と、人、工、授、精、を、行、っ、て、い、る、そ、う、だ、
1腹、が、約2000個の卵、が、と、れ、シーズン全体では、約
2000万個の卵、を、授、精、さ、せ、て、い、る。その様子、は、採、卵、場、の、窓
から、見、る、こ、と、が、で、き、た、（下の図、は、卵、に、精、子、を、か、け、て、い、る、と、こ、ろ）
授、精、後、す、ぐ、に、近、く、の、ふ、化、場、へ、運、ば、れ、翌、年、3月、ご、ろ、稚、魚
たち、は、再、び、泉、田、川、へ、放、た、れ、る、し、ば、ら、く、川、で
す、ご、し、た、後、海、へ、下、り、回、遊、の、旅、が、始、ま、る、の、だ、

そ、い、て、2000万、の、う、さ、3年後、に、川、に、も、ど、っ、て、く、る
回、帰、率、は、約0.5%、と、い、わ、れ、て、い、る。
の、ぼ、て、き、た、サケ、が、自然、産、卵、に、よ、て、増、殖、
で、き、れ、ば、い、い、な、と、思、っ、て、い、た、が、経、済、
性、の、面、か、ら、お、お、考、慮、
さ、れ、て、い、な、い、よ、う、だ、
生、ま、れ、育、つ、た、川、に、も、ど、っ、て、く、る、本、能、が、
利、用、さ、れ、収、獲、さ、れ、る、姿、は、野、生、
動、物、と、い、う、よ、り、家、畜、を、み、る、よ、う、で、
複、雑、な、気、持、ち、が、し、た、

